

逃げ遅れる人々

東日本大震災と障害者

2012年 | 74分 | ドキュメンタリー映画

監督 飯田基晴（「あしがらさん」「犬と猫と人間と」など）

制作 東北関東大震災障害者救援本部



あの日から、私たちに何があったのか—

マスメディアでは断片的にしか取り上げられない、被災地の障害者のさまざまな現実に迫る。

2018年2月24日（土）14:00▷16:45（受付開始13:15）

落合第二地域センター 3F 多目的ホール（都営地下鉄大江戸線「落合南長崎駅」から徒歩5分）

参加費：700円（一般） | 500円（学生、収入のない方、障害をお持ちの方およびその付き添いの方）

お申し込み：ウェブまたはメールにて・詳しくは裏面をごらんください

<http://www.skill-boat.org/htbt> | skillboat.waseda@gmail.com

先着100名まで、未就学児および小学生低学年の入場は不可

小野和佳氏（肢体に障害があり、福島県・いわき自立生活センターで被災後、避難生活を経験）によるアフタートークあり

会場は土足禁止（車椅子対応します） | 映画は字幕付き | トークは手話通訳あり | ご配慮が必要な場合にはその旨お知らせください

主催：NPO法人スキルボート | 後援：新宿区

お問合せ：NPO法人スキルボート・櫻井 | skillboat.waseda@gmail.com | 090-1408-4889

障害があるということは、災害時には普段以上のハンディとなる

2011年3月11日の東日本大震災、未曾有の大災害のなか、障害をもつ人々に何が起きたのか？
福島県を中心に、被災した障害者とそこに関わる人々の証言をまとめた。

障害ゆえに、地震や津波から身を守れず、また必要な情報も得られない……。

「ここではとても生活できない」「周囲に迷惑をかけるから」と、多くの障害者が避難をあきらめざるを得なかった。そうしたなかで避難所に入った障害者を待ち構えていたのは……。

さらには仮設住宅へ入居しても、そこでも大変な不自由が待っていた。原発事故により市民の姿が消えた避難区域には、取り残された障害者が不安な日々を送っていた。

大震災に翻弄される障害者と、その実態調査・支援に奔走する人々の、困難の日々。

住み慣れた土地を追われ、避難先で新たな生活を模索するとき、涙とともに故郷への思いがあふれる。

マスメディアでは断片的にしか取り上げられない、被災地の障害者を取り巻くさまざまな課題や問題点が浮かび上がる。



お申し込み：

ウェブの場合

▷ <http://www.skill-boat.org/htbt>



メールの場合

▷ skillboat.waseda@gmail.com



メールの場合、件名 (Subject) を「逃げ遅れる人々・参加申し込み」とし、本文に必ず①申し込みをされる方のお名前、②同行される方すべてのお名前、③参加人数の合計をご記入ください

会場：

落合第二地域センター（東京都新宿区中落合 4-17-13）

▷ 地下鉄大江戸線「落合南長崎駅」から徒歩約 5 分

▷ 西武新宿線「中井駅」から徒歩約 15 分（急坂あり）

▷ 都バス [白 61 系統]・関東バス [宿 02 系統]「落合南長崎駅前停留所」から徒歩約 5 分



駐車場がありませんので車での来場はご遠慮ください。